

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立郡上特別支援学校 学校番号 112

自己評価

| 学校教育目標 | |
|--|--|
| (1) 教育方針 ・児童生徒の人格と生命を尊重し、一人一人の障がいの状況、特性及び発達段階等に応じたきめ細かい教育を行う。 ・児童生徒のもつ力を最大限に伸ばしながら、自立や社会参加に必要な知識や技能、態度を育成する。 ・仲間と助け合い、ともに明るく生きる力を育む。 | |
| (2) 教育目標 <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">一人一人が生きて光り輝く教育=きらめきの教育</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;">魅力ある学校</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;">信頼される学校</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;">開かれた学校</div> </div> </div> | |

| 領域 | 重点項目 | 具体的取組及び成果と課題 | 評価 |
|------|---|---|----|
| 学校経営 | ◎二校舎体制にあたり、学校全体及び各校舎運営の組織化と円滑化を図り、全職員が一致団結して、健康でやりがいをもてる学校経営に努め、明るい特色ある学校づくりを推進する。 | ○働きやすい職場づくりに向けて年2回の職場研修を実施し、本校の雰囲気や普段から気を付けていることなどについて意見交換を行った。 ○働き方改革に努め、2校舎間のWeb会議システムを利用した合同研修を行った。 | A |
| | ◎児童生徒の発達段階、障がいの程度や保護者のニーズを的確に把握し、実態に応じた合理的配慮の提供に努めるとともに、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用して、きめ細かな教育を実践する。 | ○個別の指導計画を作成する際は、内容を部主事と検討することで、実態に合った目標を設定することができ充実したものとなった。 | A |
| | ◎学習の場を広く地域に求め、地域の教育力や地域資源を積極的に取り入れながら、体験的な学習を推進するとともに、児童生徒の学習活動の様子や成果を地域に積極的に発信し、開かれた学校づくりに努める。 | ○小・中学部は、地域の方に、田植え・稲刈り・脱穀等様々な体験を提供していただけた。高等部においても清掃活動において、レクリエーションを行い、楽しく交流できた。 | A |
| 研 修 | ◎児童生徒の生きる力を育てるために、実践を的確に把握した上で、個々の付けたい力を明確にし、支援の手立てを具体化する授業研究を組織的・計画的に実践する。 | ○全校授業研修会事前研として数回に分けて授業公開を行い、多くの先生に参観していただくことができたので、当日は円滑に研究主題について検討することができた。 ○研究紹介、研究報告会等、両校舎での研修や、授業公開について、Web会議システムを利用して、移動の負担を減らして実施することができた。 | A |
| 教科指導 | ◎児童生徒の発達の段階や学習状況を踏まえて、一人一人に応じた指導のねらいと評価の観点を明確にし、児童生徒の主体性を育てる指導を充実する。 | ○指導と評価の年間計画では、前年度の反省をもとに児童生徒の実態を踏まえながら作成、修正することができた。また、半期ごとに評価を記入し、見直しを図ることができた。 ▲教育課程については、単年度での見直しは難しく、長期的なビジョンを持って検討にあたる必要があり、委員会の時期が早すぎると新メンバーで十分な検討をすることが難しい。 | B |
| 道徳教育 | ◎経験の拡充を図り、豊かな道徳的心情を育て、道徳的判断や行動ができるよう指導するとともに、仲間や地域の人々との触れ合いを通して命を大切に作る心、相手を思いやる心、感謝する心を育て、温かい人間関係を醸成する。 | ○体験的な活動を通して、社会生活のルールを身につけていくことができるような活動を各学部で個々の実態に合わせて全教育活動で取り組んだ。 | A |
| 特別活動 | ◎よりよい学校生活を築くために生徒会活動、委員会活動等を通して、仲間とともに協力して活動を展開する中で自主的、実践的な態度を育てる。 | ○小・中学部合同の行事がない月には児童生徒集会を行い、児童生徒が活躍する場を設定した。 ▲高等部では委員会の時間が多かったため、在り方や必要時間数等の相談を教務と行う。 | B |

| | | | |
|-----------|--|--|---|
| 自立活動 | ◎的確な実態把握の下、児童生徒、保護者のニーズを踏まえ個別の指導計画を作成、活用し、適切な指導に努める。 | ○自立活動主体の教育課程で学習している児童生徒に対する授業づくりについて、学部を越えて検討することにより、自立活動の授業で大切にするべきことを担当教員で共通理解することができている。 | A |
| 総合的な学習の時間 | ◎将来の自立や社会参加に向け、一人一人の障がいの状態に応じた横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する能力及び態度を育成する。 | ○米作りなどの体験を通して仲間や地域の人と関わりながら、児童生徒自身が自分のできたことに気づき、意欲や自信が持てた。 ○就労支援ブックについては、担任・進路支援部・支援センターと事前に相談し、生徒一人一人に応じた適切なものを作成できた。 | A |
| 生徒指導 | ◎一人一人が安心して充実した学校生活を送れるよう、障がいの状態を正しく把握し、児童生徒理解の深化を図ると共に全校体制による教育相談を実施する。 ◎問題行動（いじめ、SNS、IT通信機器を介した事案など）については、全教職員が危機意識をもち、組織的に対応し、未然防止・早期発見・早期対応に努め指導を徹底する。 | ○問題行動が生じた際、関係者が迅速に集まり対応ができた。また、S B内での生徒間のトラブルでは添乗指導など複数の教員で協力して行えた。 ○児童生徒の安全には細心の注意を払っており、緊急時の対応も含めて、保護者アンケートでの評価は良かった。 ▲児童生徒間のトラブル等、些細なことでもいじめ事案として丁寧に対応したが、保護者アンケートの評価では昨年度より肯定的な意見が減少した。 | B |
| 進路指導 | ◎家庭及び地域や福祉・労働等関係機関との連携を十分に図り、企業等との協力・連携の下、社会的自立・職業的自立に向けた進路支援及び移行支援体制を確立する。 ◎児童生徒や保護者の思いや願いを支え、個に応じた適切な支援ができるよう「個別的教育支援計画」及び「個別移行支援計画」を活用し、発達の段階を踏まえた系統的なキャリア教育を推進する。また、途切れない支援計画を構築する。 | ○保護者に進路に関する情報を伝えるための研修会、懇談会、見学会を実施するとともに、進路通信等を通じて参加への呼びかけができた。 ○小中学部進路懇談会は、ほとんどの中学部保護者が参加し、昨年度よりも多くの方に参加いただいた。身近で知っている児童生徒・卒業生の様子を動画で見て、情報を得ることができて良かったという感想が主であった。 ○担任が保護者に伝えるためのツールとしての「進路のしおり」発行に向け、福祉サービス利用までの流れ、企業就職までの手続き等をまとめ、懇談会で活用できた。 ▲情報発信や研修会は実施しているが、参加者が少ないという現状があった。 | A |
| 健康教育 | ◎健康、安全で活力のある生活を営むための資質や能力を育てる。 ◎生活習慣や心身の健康状態を的確に把握し、指導内容を明確にする。 ◎家庭や地域社会と連携しながら、命を守り切る対策を講じる。 | ○小学部・中学部とも担任学部を中心に、散歩、朝活動等昨年度の運動に関する活動を継続してできた。 ○肥満傾向にある生徒への指導を始めた。まだ改善は見られないが、家庭と協力して対応できている。 ○看護講師の負担、家庭の負担などを考えながら、保護者、看護講師、保健主事が協力しながら安全第一で医療的ケアを進めることができた。 ○給食のアレルギー対応は問題がなかった。職員研修でアレルギー対応訓練を行うことができた。 ▲学校医との連携をもう少し密にして児童生徒の課題に迫る指導ができるようにする。 ▲那比校舎においては、防災研修から物の固定が不十分であることが分かった。 | A |

A：達成できた

B：概ね達成できた

C：あまり達成できなかった

D：ほとんど達成できなかった

学校関係者評価（令和元年11月20日学校評価実施）

意見・要望・評価等

- ・授業参観では、アットホームな雰囲気とのびのびと元気な子供の様子が見られた。一人一人に応じた指導やきめ細やかな指導がなされている。
- ・福祉事業所を利用される卒業生は、戦力として活躍している。卒業生の受け皿として、当方もより一層頑張っていく。
- ・会議室棟ができ学校施設が充実した。さらに施設の充実に努めてほしい。
- ・1年間いろいろな行事に参加したが、職員、子供たちの熱意が表れていた。
- ・学校と地域住民との触れ合いを継続し、地域を生かした教育を進めてほしい。